

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第4回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成25年10月3日（木）午後6時 ～ 8時
開 催 場 所	ボランティアセンター会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、伊東理年、奥原せつ子、比留間英世、高橋茂明、北口良夫、本間由美子、比留間毅浩、山田行雄 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告事項 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを3団体実施した。  議題2 その他 特になし。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ◎印：発表団体 △印：協働所管課 ●印：事務局	報告事項 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について ● 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議結果の報告の前に、本日、傍聴人が6名いるが、武蔵村山市市民協働推進会議の「会議の公開に関する運営要領」の第5条の規定に基づき、会議の開会前に座長の許可を受けているので報告する。第3回武蔵村山市市民協働推進会議については内容の確認をお願いします。修正等がなければ、会議録の承認とみなしホームページ等で公開する。 □ 提案団体によるプレゼンテーション終了後は第二次審査あたっての意見交換行う予定でいるので、傍聴者については退室をお願いします。  議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について ● 会議次第1頁から2頁及び別表の審査基準を基に説明。 □ 質問等はあるか。 -なし-  事業番号25-7 団体名：いつひよファミリー～With 石田倫依 事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト（仮）  -提案団体によるプレゼンテーション-  質疑応答 □ 質問はあるか。 ○ 児童館が行っているサービスは何歳から受けられるのか。 △ 市内に住所を有する18歳未満の方である。また、幼児については保護者同伴でサービスを提供している。 ○ 事業を実施するにあたり、子ども家庭支援センターとの情報共有が必要だと思うが、現在行っている事業を実施していく上で、どのように情報共有を行っているのか。 ◎ 各種事業を実施する際に、子ども家庭支援センターには参加者の要

望や地域の課題等について様々な相談をしている。

- 現在の児童館はどのように利用されているのか。
- △ 市内に児童館は6館あり、各児童館には遊戯室及び図書室等がある。主に利用されているのは遊戯室であり、なわとび大会などの事業を毎月実施している。
- 残堀・伊奈平児童館を1つのモデルケースとして事業を実施していくようだが、児童館が利用できない場合は協働事業を実施できないのか。
- ◎ 児童館が利用できない場合は、他の施設である地区会館や老人福祉館などを活用していくことを考えていく。
- 児童館側には本事業の内容等について話をしているのか。
- ◎ 7月から本事業の内容を伝えている。
- 児童館は事業実施に向けて前向きに検討しているのか。
- ◎ 本事業が協働事業提案制度において採択されるのかどうかでかわってくる。
- 提案書には様々な事業のことが記載されており、1年間で何をやりたいのかわからない。また、多くの事業を提案書に記載するのはよいが、全ての事業を本当に実施できるのか。実施可能な事業のみを記載してもらいたい。
- ◎ 児童館で行う事業以外のことは既に実施している事業であり、提案書に記載してある事業を実施することは可能だと考えている。
- 100万円の予算を使用して実施する事業であるので、事業内容をもっと明確にしてもらいたい。今の提案書では本当に100万円の予算が必要であるのかどうかの判断ができない。
- ◎ 今回新たに提案しているのは月に2回残堀・伊奈平児童館等で事業を実施することである。その事業を実施する上では備品の購入など様々な経費がかかる。今回提案書に記載した予算の人件費と備品購入費は概算で出している。
- 正確に予算を組むことは難しいのは分かるが、提案書に記載された100万円の使途では内容を判別するのが困難であり審査が難しい。事業の決算の各項目が予算の倍以上や半分以下になったらおかしいので、提案書作成の段階でしっかりと積算根拠がないといけない。
- ◎ 児童館で実施する事業の人件費の積算根拠はあるが、活動している時間は3時間×1000円×4人×2回×12ヶ月で28万8千円になる。備品購入費については概算である。
- 人件費の内訳が分かっているのであれば、しっかりと提案書に書いてもらいたい。
- 本事業は乳幼児の親を対象としているが、児童館は小学生も遊ぶ場であり、小学生などの大きい子どもと同じ場所で事業を実施するのは厳しいのではないか。
- ◎ 本事業は午前中に実施するので、小学生の子どもが児童館を利用することは少ないので問題ない。
- 児童館が小学生等の子どもに利用されない午前中を利用するのは良いと思うが、ベビーベッドなどの備品は市の方で準備できないのか。また、団体の活動費はどこから出ているのか。
- △ 備品については予算化するのは難しいと考えているが、現在ある備品を貸出ことは可能である。
- ◎ 団体の活動費については無償で行っている事業と300円程度の参加費をいただいている事業があるので、参加費のみで活動をしている。

- 参加費として300円いただいても利益にならないのではないかと。
- ◎ 講演などのイベントや消しゴムはんこの事業などで収益をあげている。
- ◎ 歌の仕事をしている関係でいろいろな機材を持ち込むことができる。今までは機材費をいただいているが、今年度からは1回の事業ごとに機材費としてお金をいただいている。
- 市の保育園及び幼稚園を中心とした出張保育を提案しているが、めぐみ保育園以外でやることは考えているのか。
- ◎ 少しずつ子育ての支援の輪を広げるため他の園でも実施していきたい。
- 団体が購入した備品は市のものになるのか。また、マットを購入した場合他の児童館にマットを移動することは可能なのか。
- ◎ 市の備品にはならないが、市の事業で必要な場合があれば貸出は可能である。
- 親子で遊ぶ事業は現在、市で実施していないのか。
- △ 乳幼児を対象とした親子事業はやっていない。
- 本事業の対象年齢は何歳までか。
- ◎ 小学生までを対象とされている。
- 提案書の中で地域コミュニティという言葉がいくつか記載してあるが、地域コミュニティとは自治会のことか。
- ◎ 一番は子育て中の母親のコミュニティを想定している。自治会とも今後は世代間の交流として事業を実施していきたいと考えており、以前には中原自治会と交流事業を実施したこともある。
- 核家族の時代の中で高齢の方と子どもが交流する場はよいと思う。
- ニーズ調査がスケジュール表に入っていないのはなぜか。
- ◎ 各種事業でアンケート調査を実施していくので記載していない。
- 事業スケジュールの最後の事前調査後、実施するとあるが何を実施するのか。
- ◎ ワークショップの実施や参加者のニーズに応じた事業を実施する。
- 100万円を何に使うのか。ワークショップ等の事業内容や人件費等の積算根拠を出してもらいたい。また、本事業に関係のない事業は提案書に記載しないでほしい。

事業番号25-3

団体名：特定非営利活動法人むさしむらやま子ども劇場

事業名：ちびっ子名人育成プロジェクト

-提案団体によるプレゼンテーション-

質疑応答

- 質問はあるか。
- 事業目的や効果にはこまやけんだまの昔遊びを通じて、子どもたちの人間関係を構築させるとなっているが、実際に事業を実施してどのような効果が表れているのか。
- ◎ 初めて事業を実施する学校を訪れたときは子どもたちのまとまりがなかったが、事業を実施していく上でまとまりを感じる事ができた。
- 子どもたちには事業に関するアンケートは実施していないのか。
- ◎ 実施していない。
- 事業が終わった学校の子どもたちはこまやけんだまを持っているの

か。

- ◎ 学校にこまとけんだまの保管をお願いしている。
- こまやけんだまは事業が終わった後も継続的に使われているのか。
- ◎ 使われている。
- 自主的に使っているのか。
- ◎ 放課後支援員にこまやけんだまの使い方を教えてほしいと子ども達  
がお願いしているので自主的である。
- 放課後支援員とはどのような人なのか。
- ◎ 放課後こども教室をサポートする人である。
- 継続性があるのか疑問である。大丈夫か。
- ◎ 事業に参加した子どもたちから事業に参加していない子ども達にこ  
まやけんだまの使い方や技が伝わっているので、継続性については問  
題ないと考えている。
- 提案書の中の事業成果の活用と将来展望で祭りやイベントでの発表  
の場を確保し今後事業を定着させていくとあるが、事業スケジュール  
にそのような記載がない。
- ◎ デエダラまつりで発表する場を設ける。平成26年度は今まで事業  
を実施した学校を含めた6校の子ども達に参加してもらいたいと考え  
ている。
- 活動期間が7月から10月となっているが、10月以降は事業を実  
施しないのか。
- ◎ 協働事業提案制度は予算の関係上、3年間しか補助金をもらえない  
ので10月以降は続けられない。また、最終的な目標がデエダラまつ  
りでの発表なので10月で事業は終了する。
- 協働事業自体は3年間で終わってしまうが、年1回大会を開催する  
ことなどを今後やってもらいたい。補助金がなくても何らかの形で継  
続してもらいたい。
- ◎ 資金がないので継続していくことは難しいが、こまやけんだまの道  
具などは学校にあるので、こまやけんだまのメンテナンス等は考えて  
いきたい。事業の継続性は大事であり、本事業を今後も実施してもら  
いたいと参加者や関係者から要望をいただいているので、子ども達の  
成長をみながら継続できるような対策を図っていきたい。しかし、現  
段階では具体的な企画はない。
- 本来であれば最終年度に事業を継続させていくための仕掛けを用意  
しないといけないと思う。
- デエダラまつりの実行委員会にこまなどを発表する場を定着させる  
よう要望してみてもどうか。
- ◎ 今後、デエダラまつりにどのようにして関わっていくかが課題であ  
るが、事業を継続していく上での仕掛けづくりを検討していきたい。
- 子ども劇場が独自に実施する事業もあると思うが、独自の事業を実  
施する際に子ども達に集まってもらい、発表する場を設けるようなこ  
とはしてもいいのではないか。
- ◎ 今の子供たちは縦の繋がりがなくなっているので、こま等を通して  
繋げていきたい。
- 本事業に参加している子どもは何人いるのか。
- ◎ 平均すると30人くらいである。
- 年齢は何歳くらいなのか。
- ◎ 放課後子ども教室に登録している生徒を対象に実施しているが、3  
年生くらいが多いと感じる。
- 高学年が低学年に教えているのか。

- ◎ 教えている。また、上達した低学年の児童が高学年の児童に教える事もある。
- 本事業は3年間で市内6校において実施していくとなっているが、放課後子ども教室を行っていない学校ではできないのか。
- ◎ 市内全学校で実施していきたいとは思っている。
- 協働事業はいずれ、市の事業として取り入れることが本来の趣旨である。市内6校以外の学校については市で予算化して事業を実施することは考えられないのか。
- △ 本事業は子どもに対して非常によい事業だと認識しているが、放課後子ども教室を行っていない学校に事業を実施するということを考える前に、市としては放課後子ども教室をやっていない学校に教室を設置することを先行して考えていき、新たに教室が設置された学校には本事業のような事業を実施することは可能である。
- 平成24年度の会計収支計算書に民間助成金収入があるが、民間助成金収入の科目の中に協働事業提案制度の補助金は含まれているのか。
- ◎ 含まれている。
- 補助金は民間助成金ではないので、科目を別に設け収支計算書を修正してもらいたい。

事業番号25-8

団体名：グラシオス プラント パートナー

事業名：小学生への花育と豊かな環境作り

-提案団体によるプレゼンテーション-

質疑応答

- 質問はあるか。
- 本事業は団体育成型で実施しており本申請が3年目になるが、本事業の1年目から3年目に至るまでに団体の企画力等は高まったのか。
- ◎ 1年目はある程度、花の知識をもった方を集め事業を実施した。事業実施していく上で、花がただ単に好きというだけでは、花の植え方等について人に教えるのは難しく大変であったため、スタッフには相手に分かりやすく伝える方法などを教えた。事業を実施していくにつれて、スタッフからは事業に対する多くの要望やアドバイスなどの声があがり、個々の意識が高まったと感じている。事業を実施したばかりの頃はスタッフのほとんどがやらされている感じで行っていたが、今では一人ひとりが責任をもってやるようになっている。
- 参考資料にある国体の開催に向けての花の植込みは16人の会員で実施したのか。
- ◎ 会員は6人であり、他の10人については花が好きな同志である。
- 会員数は6人のままなのか。
- ◎ 現段階では6人であるが、花が好きな同志に声をかければ会員は増えると思う。
- 本事業は学校を中心に実施していき、花育の楽しさ等を子どもたちに学んでもらうことが目的となると思う、事業を今まで実施してきた中で、本事業が広がっていく成果はあるのか。
- ◎ 植えた花の種を次の学年の子ども達が植えれば広がるのではないかと考えている。
- 花は綺麗で素晴らしいがメンテナンスをしっかりと行わないと2年や

	<p>3年で花壇等が雑草だらけになったりする場合がある。今まで実施した学校は綺麗にメンテナンスされ花育は継続されているのか。</p> <p>◎ 事業を実施した学校のその後の花育状況については把握していない。</p> <p>○ 会員の会費が5千円で収入が少ないので、今後は会員を増やし会費で事業を継続していける体制を整えてもらいたい。また、事業を実施した学校には定期的に足を運び花育の様子を把握してもらいたい。</p> <p>◎ 最終的な目標は花がたくさん咲いている市にしたい。その目標の達成には今の会員6人では足りないと認識している。会員を増やすことは今後の課題として残っているので、市内で花が好きな方に対し、会員になってもらうような努力をしていきたい。また、会員に対してはスキルアップするよう力を入れていきたい。</p> <p>□ 参考資料にある国体の開催に向けての花の植込みは完全なボランティアで実施したのか。</p> <p>◎ 花代以外は無償である。</p> <p>□ 報酬はもらった方がよい。</p> <p>◎ 今後はしっかりとした報酬はもらっていきたい。</p> <p>□ きちんとした成果を出しているので報酬は必要経費として受け取るべきである。</p> <p>○ 会員募集を市報に掲載してはどうか。</p> <p>◎ 検討していきたい。</p> <p>-ここから非公開-</p> <p>議題2 その他 特になし。</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<p>□公開 傍聴者： 6 人</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>一部公開</p> <p>□非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="font-size: 2em;">{</p> <p style="text-align: center;">武蔵村山市情報公開条例第8条第4号に定める情報のため</p> <p style="font-size: 2em;">}</p>
-------------	---

会議録の開示・非開示の別	<p>□開示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：武蔵村山市情報公開条例）</p> <p>□非開示（根拠法令等：）</p>
--------------	--

庶務担当課	生活環境部 協働推進課（内線： 242 ）
-------	-----------------------

（日本工業規格A列4番）